

自動車産業が壊れる日 | 水素水ビジネスの品格

Wedge

Guiding Japan
forward

ウェッジ

JUNE 2016
Vol.28 No.6
定価 ¥500

6

Special Report

自動車産業が壊れる日

自動運転の「先」にある新秩序



Wedge Opinion

核よりも
ミサイルに注目せよ
軽視は禁物 北朝鮮の実力

Wedge Report

水素水にのめり込む
大手メーカーの品格
「高濃度」だけど効果は「水分補給」

Wedge Report

熊本地震の初動対応
過去の教訓が生きた
物資輸送、ガス復旧の舞台裏

WEDGE REPORT

安かろう悪かろうは過去の姿

拡大するパソコンリユース市場 薄れる中古品への抵抗感

「中古パソコン」と聞くと、新品との価格差、動作性能、セキュリティなどが気になるが、それら乗り越えて大きな飛躍を遂げている背景を探る。

文・中西 享 Toru Nakanishi



企 業から不要になったパソコン、オフィス家具などを回収し、再利用（リユース）するビジネスが伸びている。これまでは、古くなったパソコンなどは、二束三文で廃棄するしかなかったが、この数年はベンチャーも含めて買い取り・回収業者が多く現れて有料で下取りしてくれるようになった。一方、使う側も東日本大震災以降、景気が思わしくなくともあって節約志向が強まり、中堅・小企業などでは中古品でもあまり抵抗感なく使われるようになり、「中古でOK」という需要が生まれてきている。

パソコン 年間100万台を回収

循環型社会の実現のためリサイクルを主導してきた環境省は、2016年度からはリユースを循環型社会形成のための重要な柱と位置づけ、「捨ててしまいう前に、できるアクションがある」として、買い取りや宅配回収サービスを利用するよう呼び掛けている。

日本国内では年間約1000万台の新しいパソコンが出荷され、中古市場には毎年約1220万台が出回る。内

訳は法人から約860万台、個人が360万台。中古パソコン市場の正確なデータはないが、周辺機器も含めると1400億円程度とみられている。

2000年に設立したブロードリンク（東京都中央区、榊彰一社長）は、企業や自治体からパソコンなどを回収、データを消去して再度販売するビジネスを展開、14年には法人から回収するパソコンが年間約100万台を突破した。榊社長は「中古市場全体から見るとまだ回収の余地は大きい。このビジネスは間違いなくこれからも拡大する」と強気だ。

数年前からはタブレットやスマートフォンにも対象を広げ、昨年は約10万台を回収した。タブレット、スマホは製品のライフサイクルがパソコンと比べて短いため、今後はこの分野にも力を入れる方針だ。リーマンショック前はパソコンの価格は20万から30万円していたが、この数年は10万円から数十万円にまで下がっているため、中古と新品との価格差が縮まってはきているが、回収台数と販売台数は順調に伸びており、利幅は十分取れるという。

同社で再生した中古パソコンは中小企業などからの引き合いが多い。リー

マンショックの後に東日本大震災が起きて以降、中小企業の節約志向が一層強まり、新品と比べて数万円安いだけでも中小・零細の経営者は中古パソコンを選ぶ傾向が強まったという。数台のパソコンでも、掛け算すれば新品と比べると10万円以上の経費の削減につながるため、厳しい経営を強いられる中小企業にとっては、背に腹はかえられない。

企業から購入するパソコンの多くはCPUがインテルCore i3やCore i5などで、用途を限定（入力作業など）すれば、十分対応できるという。中小企業では、新品でなくても「ワードとエクセルさえ使えるなら、安い中古パソコンでかまわない」という価格重視の要望が多く、このビジネスを支える要因になっている。

大企業が購入する場合は、情報システム部門がパソコンをウィルスなど含めて十分点検した上で、基幹システムに影響のない業務で限定的に使用している。また新人研修、選挙、イベントなどでスポット的にパソコンがまとまった台数必要になることもある。こうしたケースでは大企業や自治体から中古パソコンをレンタルで使用するケース

が多い。

学習塾に多くの中古パソコンを販売してきたブロードリンクは、関西を中心に全国展開している塾大手のティエラコム（神戸市）に3000台の中古パソコンを販売した。同社は塾の授業で生徒が映像を見るためにパソコンを使うが、新品である必要はないため6年前に中古の購入をした。いまもこのパソコンは授業で使われている。

ティエラコムの増澤空社長は「これからの時代はパソコンは資産ではなく消耗品として考えなければならぬ。新品であれば1台約4万円かかるので、3000台だと1億2000万円になる。それが1台1万7000円で購入したのでかなりの経費削減になった。購入後もサポートしてくれるので助かっている。生徒は中古品だと見抜くだろうが、モノを大事に使う精神、本質的に必要なものを見極める眼力の子供たちに伝えたい」と教育的立場からも中古品を使う価値を強調する。

セキュリティのため 初期化してから出荷

中古パソコンを購入する場合に心配になるのが、正常に作動するかどうか

だ。ブロードリンクでは、企業から買い取った全部のパソコンのハードディスクドライブ（HDD）を含めてきちんと動かすかどうかを確認、世界各国で使われているデータ消去ソフト「Blancco」を使ってデータを完全に消去、マイクロソフトから提供される中古パソコン用の基本ソフト（OS）をインストールして初期化した状態にしてから出荷する。購入前にはパソコンの性能を点検できる検証機を無償提供、購入台数の5%を予備機として提供し、1年間の保証期間を設けるなど、購入後のサポートもしている。

10年ほど前はOSが搭載されていない中古パソコンが出回るなど品質に問題があることが指摘されていたが、マイクロソフトがブロードリンクなど信頼できる中古業者と協力して劣悪な中古パソコンを一掃するよう乗り出した。こうした努力が実って、今では不良品パソコンは激減しているという。

10年以降は大手企業からの回収依頼も多くなり、取扱い台数も飛躍的に増え現在は7500社の企業、団体、自治体などと取引関係がある。昨年は日本郵便と全国に2万以上ある郵便局から8万台ものパソコンなどを回収する

契約を獲得した。モデルが古くなったパソコンを一斉に入れ替えたため、これだけの台数を下取りすることになった。回収したパソコンはデータ消去をして、業者間、法人向け販売、個人向け通販などですべてさばけたという。

年間約100万台回収するパソコンのうち、比較的新しいものは国内向けに再利用商品として中古パソコンの販売業者に卸売りし、残りの古いパソコンは主として海外マーケット向けに輸出する二つの大きな流れがある。海外ニーズはこのところ急速に拡大しており、フィリピンなどの東南アジアやアフリカ向けには日本から中古車が販売されているのと同様に数万円の中古パソコンが売られている。

中古パソコンを再利用して販売する上で重要なことは、回収したパソコンのデータを完全に消去することだ。データが消去されずに少しでも残っていると、情報が漏えいする恐れがあるためだ。米国家安全保障局（NSA）が採用している国際的な規格に準拠したソフトを使って回収したパソコンのデータを完全に消去、これまでデータ漏えい事故は一度もない。

パソコン回収時に使用するトラック

リユース市場規模 (2014年)

出所: リサイクル通信

| 取引相手 | 取引種別 | 金額 |
|------|-----------|-----------|
| 個人向け | 国内店舗 | 9673億円 |
| | 国内ネット | 5676億円 |
| | その他 | 527億円 |
| 企業間 | 国内卸売 | 1294億円 |
| | 業者間オークション | 1672億円 |
| | 輸出 | 975億円 |
| 合計 | | 約1兆9900億円 |

には独自の鍵付きセキュリティカーゴを導入するなど、運搬時の安全対策にも気を配っている。データ消去を行う工場では、作業員の入室管理を厳重に行い、ICカードと指紋認証によるダブルチェックを行っている。赤外線カメラが各所に設置され、ドアが1分間以上開放されると警告音が鳴り響き、不審者の侵入や行動を防止できるようにになっている。